

稲作だより

～第3号 育苗編～

1. 健苗育成のための温度と水管理 <<高温障害に注意!!>>

気温の低い日でも、日が当たると閉め切ったハウス内はすぐに高温になります。朝8時前までに換気しましょう。田植えの1週間前からは、霜や極端な低温のおそれがない限り、夜間もハウスの両脇などを開けて徐々に外気に慣らします。

◇温度管理の目安

稚苗育苗（育苗器で出芽する場合）		中苗育苗（無加温で出芽する場合）	
出芽期（2日間）	30～32℃	出芽揃いまで	20℃以上
緑化期 （3日間）	昼間 20～25℃	出芽期～ 1.5葉期	昼間 30℃以下
	夜間 10℃以上		夜間 10℃以上
1.5葉期以降	昼間 15～20℃	1.5葉期以降	昼間 15～20℃
	夜間 5℃以上		夜間 5℃以上

○かん水は、基本的に午前中に1回たっぷりに行いましょう。根張り不良の原因となるため、低温時や夕方のかん水は行わないようにしましょう。

2. 育苗期に発生する障害

苗立枯病、苗立枯細菌病は高温、過湿で発生しやすくなります。苗の地際部や根周辺のカビ、生育異常等がみられたら、早めにご相談ください。

◇育苗時の主な病害、障害の原因と対策

障害（原因菌）	症状	原因	耕種的な対策
苗立枯病 （リゾプス）	覆土の表面や種籾のまわりに白いカビ	出芽期間中の高温、緑化開始後の低温	高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する。
苗立枯病 （トリコデルマ）	地際部に青緑色のカビ	水分不足、土壌pH4以下、出芽時の高温	高温を避ける。
苗立枯病 （フザリウム）	地際部に白または紅色のカビ	低温、乾燥・過湿の繰り返し	低温を避ける。過湿、過乾燥にしない。
ムレ苗症状	2葉期以降、葉先が巻いて萎れる	過湿、低温、土壌pH6以上、厚播き	過湿にしない。

3. 追肥は適量を – 1箱あたり窒素1gが基本です –

◇追肥時期と100箱分の施用例

苗の種類	追肥時期	施用例
中苗(35日苗)	1回目：2.0葉	例) 液肥2号(窒素成分10%)を100箱に施用の場合、水100リットル+液肥1リットルを混合し、1箱あたり1リットルずつ施用。
	2回目：3.0葉	
稚苗(25日苗)	1.8葉期	

※育苗土に緩効性肥料（中苗一発など）を使用した場合は追肥の必要はありません。